

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【公表番号】特表 2008-536349 (P2008-536349A)

【公表日】平成 20 年 9 月 4 日 (2008.9.4)

【年通号数】公開・登録公報 2008-035

【出願番号】特願 2007-557026 (P2007-557026)

【国際特許分類】

H 0 4 N 7/32 (2006.01)

H 0 4 N 5/93 (2006.01)

H 0 4 N 5/76 (2006.01)

H 0 4 N 5/92 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 7/137 Z

H 0 4 N 5/93 Z

H 0 4 N 5/76 A

H 0 4 N 5/92 H

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 1 月 9 日 (2009.1.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

M P E G 映像ストリームにおける完全な画像を構築するために必要なフレームを動的に決定するための方法であって、

複数のタイプの M P E G 映像ストリームで継ぎ目なく動作するように復号化順の映像ストリームに応じた従属性ベクトルを決定するように構成される従属性ベクトル・モデルに従って、前記 M P E G 映像ストリームのフレームの順序を復号化することであって、前記従属性ベクトル・モデルは前記従属性ベクトルを、完全にイントラコード化された画像が導出されるまで復号化順の映像ストリームを逆方向で再生することにより決定し、前記従属性ベクトル・モデルの所与のフレームは、標示されるフレームの絶対従属性として識別され、前記従属ベクトル・モデルは、(i) 表示順の M P E G 映像ストリームにおいて、前記相対コストは開始フレームからそのフレームに絶対従属するフレームまでのバイト数に応じて表示フレームの相対コストを決定すること、(i i) 表示順の M P E G 映像ストリームにおいて、差分フィルタを利用して表示フレームの前記相対コストを修正すること、(i i i) 閾値量を超える修正された相対コストを有するフレームに応じて接合点を選択することを含む、前記 M P E G 映像ストリームのフレームの順序を復号化すること、

前記従属性ベクトル・モデルに従って決定される前記従属性ベクトルに応じて、両方向での前記 M P E G ストリームのフレームの正確な表現実行すること
を備える方法。

【請求項 2】

再生が

前記復号化順の映像ストリームの現在のフレームをバッファに読み出すこと、
現在のフレームの全ラインがイントラコード化されたかどうかクエリを出すこと
を更に備え、

前記現在のフレームの全ラインがイントラコード化された場合、前記現在のフレームを絶対従属フレームとして指定し、前記現在のフレームの全ラインがイントラコード化されない場合、前のフレームをバッファに読み出し、その後、前記前のフレームを現在のフレームとして前記クエリを出すことを繰り返すこと
請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記従属性ベクトルを決定することは、相対的従属性と絶対的従属性とを含む M P E G フレームの従属性を決定することを備え、相対的従属性は、前記復号化順の映像ストリーム内で前に発生したアンカー・フレームに従属するアンカー・フレームを含み、更に絶対的従属性は、復号化順の映像ストリーム内で画像のグループ (G O P) の I フレームで終わる従属性を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記接合点は、 G O P の端を示す、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

表示順の複数のフレームを備える画像のグループ (G O P) 内の、フレームの相対的従属性を決定すること
を更に備える、請求項 1 に記載の方法。